

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2018年
1月発行

No. 168

脚本家

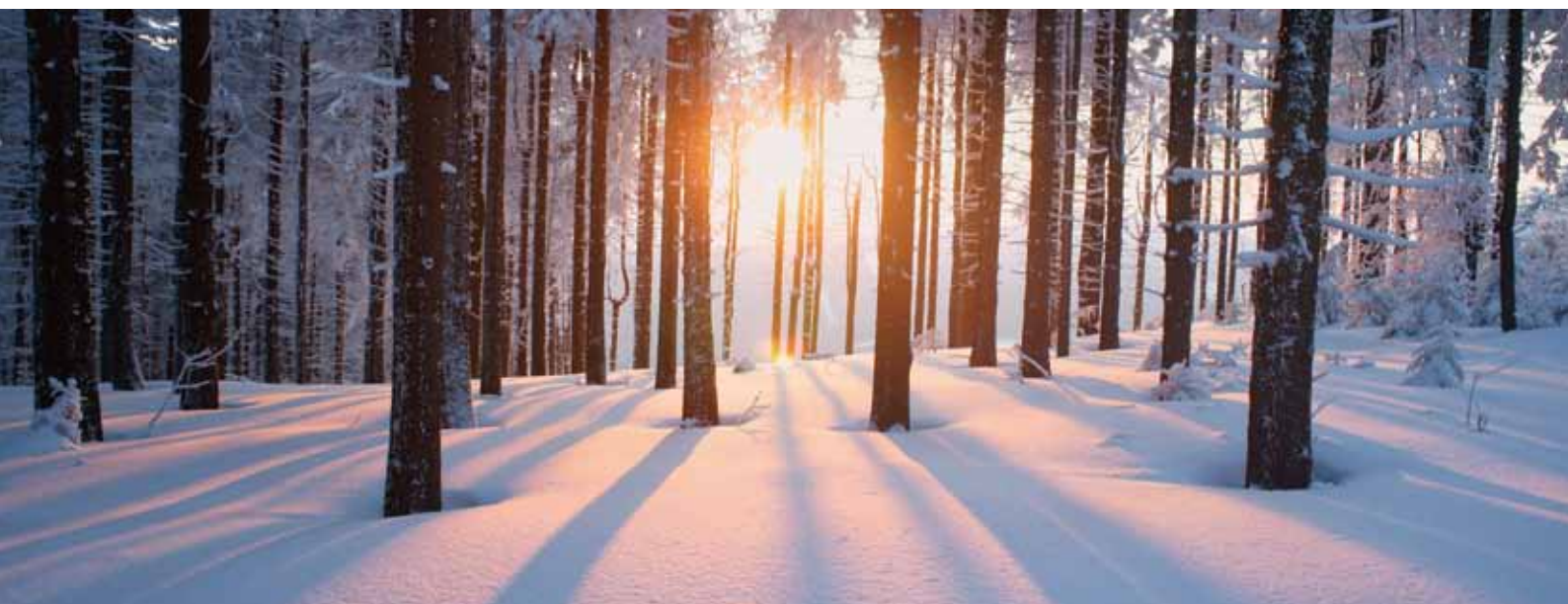
倉本 聰さん

最後の「判断」は
元気なうちに

○ LWを補完「私の希望表明書」

○ 見川泰岳・受容協力医の心得

○ 連載「四季の歌」冬の夜



一般財団法人
日本尊厳死協会



——倉本さんは現在、北海道の富良野を拠点にされていますが、東京には頻繁に来られるんですか。

倉本 ほとんど富良野にいます。東京には2カ月に1度くらいかな、テレビドラマをしていた頃は別ですけど。東京来ると4、5日いて、打ち合わせとか取材を受けたりとか、まとめて仕事をこなしています。

——東京お生まれの倉本さんが、なぜ地方の、それも北海道の『北の国から』の富良野に、と思う人も多いでしょうが、戦時中の小学校の頃、疎開されてるんですね。

倉本 小学校4年の時に学童集団疎開をしましたね。山形の上山にそれから東京大空襲のあと岡山の金光町に疎開しました。これは家族と一緒にした。

——岡山の金光町には、どんな地縁が？

倉本 親父が岡山の出でね、山奥ですけど。その関係だと思っていますね。

——少年の頃の地方の暮らしは強烈でしたか。

倉本 ずっと東京でしたから、強

脚本家

倉本 聰さん

元気なうちに最後の「判断」をしておきたい

インタビュー

構成／会報編集部・郡司武 写真／八重樫信之

れて、僕が体の上に乗っちゃって、夢中で胸を押し続けました。けっきょくダメでしたけど。

——お父さんは、おいくつでした？

倉本 52歳でした。死ぬ状況を目の前で見たのは初めてでした。あの時の最後の「ハッ、ハッ、ハッ」という呼吸の苦しさを思い出しますね。あの苦しさを見て、死の苦しみだけはどうしてもやだな、という思いがあります。

——それも強烈な体験でしたね。

倉本 死ぬこと自体は、そう怖くはないんですよ。ただ死ぬ時の苦しみ・痛みだけには恐怖感があって、今はもっぱら麻酔科の医師に親しくしてもらってます。（笑い）

「おふくろの発症は僕に責任があるんです」

——お母さんのことは、その晩年と死をモデルに田中絹代さんが演じていますよね。

倉本 『りんりん』というドラマでね。おふくろは60代の初めに躁うつ病になったんです。それは

烈でしたね。でも、山には慣れてたんです。親父が「野鳥の会」をやっていて、山歩きばかりしていたね。僕も4、5歳の頃から東京近郊の山に連れていかれてたんです。牧野富太郎さんや柳田国男さんらに交じって。だから富良野のような原野に関しては、まったく違和感はなかったですよ。ただ、

そういう山間地で完全に暮らすというのは、富良野が初めてでした。——ご両親ともクリスチャンだったようですね。

倉本 僕はまったく違いますけどね。その親父がね、僕が高校2年の時に自宅で倒れたんです。狭心症の発作が3回くらいきて「ここ（胸）を押せ！」って医者に言わ

僕に責任があるんです。

——と言いますと？

倉本 親父が亡くなって、おふくろは僕らを育てるためにお茶を教えてたんですが、あれこれ過労がたまって腎臓を壊しましてね。で、僕ももう生活が安定していたし「お茶を止めて、のんびりしたら」と言って、お茶を止めさせたんです。そうしたら半月も経たないうちに、いきなり躁うつ病になったんです。生きがい、そこでスポンと落ちたんでしょうね。それから6年くらい、精神病棟に出たり入ったりでした。

躁状態の時は、しゃべりまくるし、デパートで大量に買って、うちに品物は届くしツケは回ってくるし、いろいろ振り回されて、カミさんも大変でした。手がつけられなくなって、保健所と相談して医師を紹介してもらい、残酷に思

いました。閉鎖病棟に入院してもらったんです。東京から離れた埼玉県の小川町の病院でした。

——倉本さんが、おいくつの頃でしたか。

倉本 34、5歳でした。ニッポン放送を辞めて、一番書いていた頃でした。おふくろにそういう状態でそばにいられると、書けないんですよ。あとになって思えば、残酷なことをしたなあ。申し訳ないけれど、離れた病院に入院してもらったんです。1週間に1度は見舞っていましたが。

——大変な時期でしたね。

倉本 それで病状が少し良くなる、うちに連れて帰るんですが、今度は「うつ」がくるんですよ。私たちはおふくろの状態をノートに付けていましたから、おふくろはそれを見て、「こんなひどいことをしたの？」と言って落ち込ん

サブちゃんの付き人をして

作品を書く視線が変わりました

さんらには目もくれずに、ずっと待ってる。北海道出身ということもあるんですが、とにかく異様な人気なんです。その人気の理由を知りたい」と思って、サブちゃんに「付き人やらしてくれない？」と言って、1週間くらいやりました。函館から大間、弘前、黒石と転々しました。

——人気のヒミツを探ろうとしたわけですね。

倉本 そうそう。何を求めようとしたわけではなく、なんでこんなに人気があるのか感じたくて。

——ヒミツはわかりましたか。

倉本 わかりました。サブちゃんの立ち位置なんです。舞台の1部はヒットパレードなんですが、2部が凄いです。渋谷で3年間「流し」をやったから3000曲歌えるというんで、「何でもいから」とリクエストを受けるんです。「さあ来い」という感じかな。すると「わーっ」と声がかかり、リクエストする。そのやり取り、まさに真剣勝負ですね。それと同時にね、サブちゃんが観客と同じレ

じゃって、死にたくなるんですね。これも悲惨でした。そうこうしているうちに、また躁状態になってくる。その繰り返し。最後に、最期は脳梗塞で亡くなりました。69歳でした。

「NHKを出た足で羽田に行き北海道へ」

——倉本さんがお母さんのお茶を止めさせたことに、病状の遠因があると思っておられるわけですね。

倉本 僕の心には、今でもキズのように残っています。おふくろはお茶を止めたときに「人生をあきらめちゃった」というかね。人間にとつて、人に何かをするということ、と、されるということと比較した時に、「される」ことは生きがいにつながらないと思うんですよ。人に何かしている、役に立っている、という実感が生きがいに通じるんじゃないでしょうか。

——なるほど。そうかも知れませんが、ところで北海道に移られたのは、そのあとですか。

倉本 おふくろが死んで解放され

たというかね。その前年から、NHKの大河ドラマ「勝海舟」の脚本を書いていて、ちょっとトラブルがあつて、当時過激な組合の吊し上げにあいましてね。それで、終わってNHKを出た足で、羽田に行き北海道に行っちゃったんです。そのまま住み着きました。2、3年札幌に居て、北海道の良さを知り、富良野に移りました。

——もう東京には居たくないという思いだったんですか。

倉本 よくわからないですね。どういうわけか、そのあたりの記憶がないんですよ。

——その頃ですが、北島三郎さんの「付き人」になったというのは。

倉本 『幻の町』というドラマに、サブちゃんがちょっと出てるんです。他に笠智衆さんとか田中絹代さんとか桃井かおりとかも出てるんですが、サブちゃんの乗った飛行機が遅れたんです。そしたら、小樽のロケ現場で、サブちゃん待ちの人たちが2000人くらい集まっちゃって、笠さんや田中絹代

ベルに下がるんですよ。それを見てて思ったのは、僕がそれまでテレビドラマを書いていた時の視線は、一番底にある目線を持っていなかったんじゃないか、ということでした。どこかにエリート意識があつてね。

観客ではなく、プロデューサーとか演出家とか役者とか評論家とか、そういう人たちを対象に書いていたような気がしたんです。それ以後、作品を書く視線が変わってきましたね。

——北島三郎さんが恩人みたいですね。

倉本 それはありますね。

「尊厳死の解釈は広げていいと思う」

——倉本さんは、終末期医療とか緩和ケアのドラマなどもいくつか書かれています。健康とか死については、どんなお考えを？

倉本 そうね、『風のガーデン』のドラマの時に、緒形拳さんが大滝秀治さんに「健康と元氣は別のもんだ」と言われたと、僕に言っ



たことがあるんですが、確かに健康と元氣は違うという気はしますね。元氣だと、いろんな判断が冷静にできるという気がする。だけでも健康でも元氣がなくなると判断はできなくなってしまうんですよ。だから元氣なうちに判断をしておくほうがいい。僕は体はガタきてますけど、まだ一応元氣だから、「終活」を始めましたよ。遺書も書いたし墓も買いました。尊厳死協会にも入るつもりです。尊厳死については、もっと解釈を広げていいんじゃないかと思うなあ。生きる望みを失っちゃうというか、もう十分生ききったと思ったときは、人間は自裁してもいいような気がするんですよ。「生命が一番尊い」とよく言うんだけど、果たしてそうなのかという疑問が、僕にはいささか湧いてきてるんです。――ただ生きてることだけでは尊くないということでしょうか。

倉本 まあ、そうでしょうね。義理の弟が骨髄がんで何年も苦しんで、最後はホスピスに入ったんです。そしたら、その日からコロッ

と変わってね。暗かった顔が明るくなった。ホスピスは最後には何でもしていいんですよ、酒もたばこも。笑いも出てきました。そして3カ月くらいで亡くなりました。これは正しい死に方かな、と思いましたね。ほんとに意識がなくなれば自裁もできませんから、一つ前の段階でいろいろ決めなくてはいけないと、僕は思うんです。な

遺書も書き墓も買い『終活』を始めましたよ

にかやりたくて長生きするわけですよ。そういう目的がないのにただ長生きするというのは、僕にはよくわからないんですよ。――ずっと以前から、そういうお考えでしょうか。

倉本 いや、75、6歳くらいからかな。そんな気がしています。――今日は、踏み込んだお話を、どうもありがとうございます。



くらもと・そう

1934年、東京生まれ。脚本家、劇作家、演出家。本名は山谷馨。東京大学文学部美学科を卒業後、ニッポン放送に入社。1963年に28歳で退社後、脚本家として活動。1974年に北海道に転居。富良野を舞台にしたテレビドラマ『北の国から』で大きな話題に。1984年に若手俳優と脚本家を養成する「富良野塾」を開設し26年にわたって主宰した。主なテレビドラマに『前略おふくろ様』『昨日、悲別で』『りんりんと』『風のガーデン』など。最近、『やすらぎの郷』でも話題を呼んだ。

倉本聰氏は1月から日本尊厳死協会の顧問に就任することになりました。

「両親の最期について踏み込んだ話を淡々とされるお姿や、『生命が一番尊い』というけど、果たしてそうかな」と語る姿に、どこか達観した武士のような佇まいを感じました。

多くのドラマを手掛け、若手俳優や脚本家を育て、いくつもの修羅場をくぐってこられた倉本さん。その言葉には深く強い響きがありました。

会報編集部・郡司 武

インタビューを終えて

「週刊朝日ムック」と尊厳死協会が連携「さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん」に全面協力

朝日新聞出版の医療・健康関連のムックは、「いい病院」シリーズなどで定評がある。その最新ムック「さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん」が昨年11月14日、出版された。サブタイトルに「家族と平穏死をかなえる完全ガイド・全国2104診療所リスト付」とうたっている。

日医会長との対談も再録

この企画には、日本尊厳死協会の長尾和宏副理事長が全面的に協力。巻頭からの6ページで『「平穏死」10の条件』を展開。平穏死をかなえるには看取り実績のある在宅医を探すことが大切だ、と熱く語る。続く4ページには、先に



評価が高い朝日新聞出版の医療・健康関連シリーズのムック。このムックは2017年11月に刊行。

読売新聞や日本医師会の機関紙「日医ニュース」で掲載された、横倉義武・日本医師会会長と岩尾総一郎・日本尊厳死協会理事長との対談が転載されている。穏やかな終末を迎えるためにもリビング・ウィルの作成を――その心構えや取り組みを語り合ったトップ対談。さらに続く2ページでは「日本尊厳死協会の会員になりませんか?」と、協会の会員勧誘のページが大きくとられている。

他には、自宅で母を看取った小池百合子・東京都知事と父を看取った作家で医師の久坂部羊氏との2年前の対談の再掲載も。

このムックの出版広告は、この会報の裏表紙に掲載されている。朝日新聞出版と尊厳死協会のパートナー広告はこれが初めてだが、今後も模索していきたい。ムックはB5判・132ページ。980円（税込）。（郡司記）

倉本聰氏が協会顧問に就任

脚本家・倉本聰氏の顧問就任に伴い、新しい役員名簿を掲載します。（2018年1月現在）

〔役員名簿〕

牛尾治朗 ウシオ電機株式会社社長
扇 千景 元参議院議長
奥田 碩 元トヨタ自動車株式会社社長
倉本 聰 脚本家
小泉純一郎 元首相
吉永みち子 作家

〔理事〕

岩尾総一郎 代表理事、医師・慶應義塾大学医学部客員教授
青山邦夫 副理事長、弁護士・元名古屋高裁部総括判事
鈴木裕也 副理事長、医師・埼玉社会保険病院名誉院長
長尾和宏 副理事長、医師・長尾クリニック院長
安達俊郎 本部署務局長・会社役員
江端英隆 医師・札幌徳洲会病院名誉院長
小林 司 元中日新聞局長・元家裁調停委員
近藤和子 看護師・マザリング・ライフマネジメント研究所所長
丹澤太良 元会社員
土肥理緒 弁護士・看護師
野元正弘 医師・愛媛大学医学部附属病院特命教授
橋村 襄 元新聞社論説委員
藤嶋 喬 会社役員・元銀行役員
正木文治 会社役員
満岡 聡 医師・満岡内科クリニック院長

〔監事〕

茂木敬司 会社顧問
和田義博 公認会計士・税理士

〔評議員〕

北村 聖 評議員会会長、医師・国際医療福祉大学大学院教授
相澤好治 医師・北里大学名誉教授
伊勢田曉子 看護師・東京医科歯科大学大学院非常勤講師
川合 昇 元会社役員
但木敬一 弁護士・元検事総長
鳥海房枝 保健師・東京都看護協会保健師職能委員
信友浩一 医師・九州大学医学部名誉教授
松根敦子 元神奈川県点訳奉仕団連絡協議会会長
丸尾多重子 NPOとい場「さくらちゃん」理事長
宮島俊彦 岡山大学客員教授・元厚生労働省老健局長

私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

- ☐自宅 ☐病院 ☐介護施設 ☐分からない
☐その他（ ）

2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）

- ☐できる限り自立した生活をする事 ☐大切な人との時間を十分に持つこと
☐弱った姿を他人に見せたくない ☐食事や排泄が自力でできること
☐静かな環境で過ごすこと ☐回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい
☐その他（ ）

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐経鼻チューブ栄養 ☐中心静脈栄養 ☐胃ろう ☐点滴による水分補給
☐口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう

4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐心肺蘇生 ☐人工呼吸器 ☐気管切開 ☐人工透析 ☐酸素吸入
☐輸血 ☐昇圧剤や強心剤 ☐抗生物質 ☐抗がん剤 ☐点滴

5. その他の希望

【用語の説明】

●**心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。

●**人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。

●**胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

多様さ増す最期のあり方に応え提供 LWを補完する「私の希望表明書」



協会発行の「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」は「延命措置を望まない」など包括的な意思の表示書です。近年、人生の最終段階のあり方も多様化し、LWにも個別的な対応が求められてきました。これに応え、協会はLWを補完する個人的希望を表明する書面を1月から発行することになりました。

詳細な希望、潮流に

岩尾理事長は理事会で「最後の医療をどうしたいかは、最期をどう生きたいかにつながる。延命を望まない大きな要望とは別に、詳細な希望表明をしておくことが国内外の潮流になってきている。協会も用意する必要があると考え

た」と述べました。

個人的希望表明書は、「リビング・ウィル」に付随する書面として用意されました。LWでは伝え切れない個々の医療措置についての項目のほか、「最期を過ごした

リビング・ウィル （終末期医療における事前指示書＝以下LW） に関する説明のポイント

- ☐ このLWは、人生の最終段階（終末期）において、署名者が自分らしく誇りを持って生きたいと願い、その意思表示がケアに携わる方々に伝わり、尊重されることを目的とした書面です。
- ☐ 医療について自分で選択することは、基本的人権の根幹である自己決定権に基づいています。
- ☐ LW作成にあたり、署名者は当協会や厚労省の資料などから適切な情報提供を受け、よく理解して最善と思う選択をすることができます。
- ☐ LWは署名者1人で作成することもできますが、かかりつけ医や医療チーム、ご家族、訓練を受けたアドバイザーなどと話し合いを繰り返し、より良い選択をすることを推奨します。この相談過程をアドバンス・ケア・プランニング（ACP）と言います。
- ☐ 署名者が選択した内容についてはご家族、医療者などが情報を共有されることが大切です。
- ☐ このLWは、署名者が意に添わぬ延命措置を受けずに済むようにするものですが、救命を拒むものではありません。
- ☐ 延命とは、差し迫った死の瞬間をただ引き延ばすことだけに役立つ生命機能を維持するための措置です。救命措置とは、終末期とは判断されない人が一時的に生命維持が困難となった時に、その回復を目的とする措置をさします。
- ☐ 外傷や神経、心臓、肺などの病気、あるいは遺伝性の病気により、人工呼吸器等の生命維持装置を使い生活されている方にとって生命維持措置は延命措置ではありません。

い場所」「私が大切にしたいこと」項目もあり、人それぞれの思い、自分らしさを書き残せます。

ただ、私の希望表明書は本体LWと違い、協会に登録しておく書面ではありません。必要とする会

員が個人的に所持し、適宜活用していただく書面です。

また、協会は入会希望者用に「リビング・ウィルに関する説明」を新しく作成します。説明書は、LW署名に当たり理解を得たい協会からのメッセージです。そのポイントを紹介します。

なお、説明書と「私の希望表明書」は、会員が切り取って保管できるよう会報4月号で改めて掲載する予定です。

LW受容協力医師制度の展望

ルポ——那須の大地に根を下ろした
見川泰岳医師の自然体の「看取り」
和室の病室、コタツに障子。源泉かけ流し温泉も。
「療養宿」と呼ばれる那須湯本温泉の医院で、
「最期まで付き合う」見川医師の日常をルポする。



春風駘蕩とした雰囲気の見川医師(上)。左は、「山医者」と呼ばれた父・泰山医師と若かりし泰岳医師の写真。仏間に飾られていた。



那須湯本温泉の古くからの温泉街から少し入ると、そこは雑木林に囲まれた別荘が点在し、枯れ葉が舞っていた。見川医院は、そんな那須高原の風景に溶け込むようなある。まさに和風旅館のような佇まい。

「そうですね。母がここで旅館をやってましてね。父が近くで医院を開業し、あとでここを医院にしたんです」と見川泰岳院長(58)。玄関に大きな下駄箱があり、受付の表示も木の札だ。クラシック音楽が流れ、懐かしい昭和の気配に満ちている。「ここはもちろん医院ですけど、『療養宿』と呼ばれます」と、院長は言う。

医院のHPにも「疲れた心、疲れた身体を、いかに自然に回復させるか。人間が本来持っている自然治癒力をどう引き出すか。入院された方が本心に安心感を抱いて、治療に専念できる環境づくり。『療養宿』は、これらのテーマに

真剣に取り組んでいる入院施設です」とうたっている。

案内されて木の温もりの廊下を歩く。いつでも入れる源泉かけ流しの浴槽が二つある。病室は全8室とも和室。室名は「はやぶさ」や「まどり」など鳥の名。コタツに障子。自宅にいるような気分で療養できる。廊下を配膳の女性が行き交っていて、そろそろ小さな食堂は夕食の時間だった。

父・泰山医師が戦中ここに無医村に開業

泰岳院長の父・見川泰山(ペンネームは鯛山)は、地元ばかりでなく、広く知られた医師だった。

療を支えてきた父・泰山は12年前に亡くなった。

いま、泰岳院長は、死を目前にした人の苦しみの緩和ケアの施設「ホスピス」に関心を寄せ、2年前、末期がんなどの患者を受け入れるターミナルケア対応の高齢者向け住宅を開設した。医院から歩いて数分ほど。「文月庵^{ふみげつあん}」という。末期がんの70代の女性を診療所で看取り、財産の寄付を受けて旧保養所を取得、その意思を実現させたのである。施設の名称は女性の名に因むという。「文月庵」は高台にあつて、テラスからは関東平

野が一望だ。そこに泰岳院長が毎日、訪問診療する。

「在宅の末期がん患者の往診に持っていくものはね、この『笑顔』。笑顔しかないでしょ。そしてただ手を握るだけ。『ワダシノ命はいづまでですか』って聞かれたら、『最期まで付き合いますからダイジョウブ』って答えます」と泰岳院長。

LW受容協力医師になって7年。父の代から深く、那須の大地に根を下ろしていた。

会報編集部・郡司 武

LW受容協力医師「認定証」決まる！

第2回「LW受容協力医師 活性化対策プロジェクト」が11月25日、本部会議室で開かれ、前回提案された受容協力医師「認定証」について検討。下写真のように決定した。受容協力医師全員に送付する。理事長、副理事長2人、理

事(支部長)3人、事務局スタッフにより、「認定証」の文言はもちろん、枠の紋様、英字表記、ロゴの位置など、デザイン全般について検討が加えられての決定となった。

続いて東海支部の取り組みの進

捗状況について小林理事が報告。夏に行った「受容協力医師活性化アンケート」に対する意見として「受容医に登録されたかどうか通知がない」などの意見が紹介され、「受容医師名簿を会報にどういう形で載せるか、簡易冊子など別な形をとるのか、などを含め検討する」ことになった。(郡司記)



季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

——その風景と背景

第三回

冬の夜

●文部省唱歌



燈火ちかく衣縫う母は
春の遊の楽しさ語る。
居並ぶ子どもは指を折りつつ
日数かぞえて喜び勇む。
囲炉裏火はとろとろ
外は吹雪。

囲炉裏のはたに縄なう父は
過ぎいくさの手柄を語る。
居並ぶ子どもはねむさ忘れて
耳を傾けこぶしを握る。
囲炉裏火はとろとろ
外は吹雪。

(『尋常小学唱歌(三)』明治45・3)より

作詞者・作曲者は不詳。文部省唱歌とは、明治から昭和にかけて文部省が編纂した小学校の唱歌のこと。慣例として作詞者・作曲者は非公表。当時、文部省は、作詞者や作曲者に相当の報酬を支払い、名前を出さないし本人も口外しないとの契約を交わしていたという。編纂が合議制だったため、個人の作ということも言えなかったのだろう。二番の歌詞の「過ぎいくさの手柄を語る」は作詞された時代からみて、日清か日露の戦争だろう。昭和の終戦後、このフレーズは戦意高揚ではとの批判から、戦後発行の教科書では「過ぎし昔の思い出語る」と改変されたが、子どもが「こぶしを握る」との関連がわからないとの意見などから、元の歌詞に戻った。「囲炉裏火はとろとろ」の言葉がいい。母は裁縫、父は縄ない、子どもと身を寄せ合って、ラジオの放送もまだ始まっていない静かな冬の夜、囲炉裏端で過ごす家族。外は吹雪……。

LWのひろば

夫の死に想う

三幸幸江 65歳 大阪府

25年ほど前から夫婦会員でしたが、夫は2016年10月末に91歳で亡くなりました。8月初旬から3カ月近く重症感染症で入院した末の最期でした。この間、病院に泊まり込んで寝食を共にしましたが、意識は鮮明なのに身体は下り坂を駆け落ちるように悪化していく一方で、辛い3カ月でした。

医師だった夫は、どんな処置にも自分の意思を明確に伝えることができました。やがて尿道カテーテルの留置や点滴のための静脈ラインの確

保が苦痛になり、最後はいずれも拒否しました。経口で摂食・摂水がで

きなくなつてから1週間も頑張りました。急性期治療を目的とする公立病院でありながら、最後の1か月は看護・緩和ケアのみの状態で、最後まで看てくださったことに心から感謝しています。主治医の先生は、夫の意志をよく理解し、尊重してくださいました。毎朝、病室にいられたとき「ご主人の気持ちは変わりませんか？」とお尋ねになり、「変わらないと言っています」と私が答えると、寂しそうな笑顔で退室されました。医療従事者は1日でも延命することを目指していると思います。

でも生きとし生けるもの、最後は必ず死にます。今後は「本人の意思に基づき、穏やかな生から死への移行」という視点を、医学教育、医療に積極的に取り入れてほしいと思います。

ひとり暮らしの日々

西尾利夫 71歳 大阪府

妻と事情があつて離婚し、ひとり暮らしをしていた母と一緒に住んで、私は母が91歳で亡くなるまで、50歳代の10年間、主夫をした。会社は60歳で一度定年退職したが、嘱託やアルバイトで69歳まで勤めた。会社には社員食堂があつたので昼食は心配しないで済んだ。いま、毎日が日曜日になって2年間、昼食は会社の延長で外食ばかりだが、愛車に乗りドライヴがてら、四季折々の自然の風景を眺め、夏には海辺なども訪れて、ちよつとリッチな昼食などをとることも。

訪れた先で、少しの間、好きな読書をしたり、店のスタッフと話をしたりと楽しんでる。今年71歳となったが、健康である限り、こうした暮らしを続けたい。他界した両親、

健全な老化

黒木伸泰 68歳 愛知県

世間では「死」をタブー視するが「生者必滅」なので、どう死ぬかと考えるのが自然な流れであろう。ただ難しいのは自分の寿命の設定である。平均寿命はわかつて人もそれぞれなので悩んでしまう。目安になる検査の数値に至っては簡単に変更される現状では、あまり気にすることもないのではないだろうか。年をとれば病気になるもので、大袈裟にすることはない。ひと昔前なら、ものが見えにくくなつたり耳が遠くなつたり、物忘れが進んだりするのは、病気ではなく老化やボケで済ませていた。この歳になり、取り立てて病気がとらえるのではなく、「健全な老化」だと思えてきた。

そんなこともあり、リタイアしてからは少々のことでは病院に行かなくなつた。行っても「老化ですね。薬を出しておきます」と言われるだけなので、原因だけを調べてもらうようにした。対症療法で薬に頼るより、根本原因を改善する生活習慣を心がければ、医療費の抑制につながる。先の短い老人に金をかけるより、

ある意味恵まれた結婚生活、そして私を成長させてくれた会社の先輩の方々に、感謝したいと思っている。

キンモクセイの咲くころ

野村香織 81歳 東京都

10月という神無月には縁がある。父も母も亡くなったのが10月だった。ともに多難な明治、大正、昭和、平成を生き抜いての92歳と95歳の往生だった。そして私が病を得たのも10月であつた。

65歳で会社生活を終える2年前に胃、1年前には耳下腺に「がん」なる小悪魔が現れたのである。楽しかるべき余生にあれこれ思いを馳せていただけに「こんちきしょう！」とばかりに摘出した。神のご配慮があつたのだろうか、もう20年近く生き延びている。せっかくだいだいた命である。自然に触れる山歩きにほれ込んで、あちこち楽しんできた。そろそろ山頂を極める垂直志向から、高原や尾根歩きという水平志向に変わってきたのは、体力の衰えを感じ始めた証拠であろう。年に1度の健康診断は、尿や血液検査の数値がすべて規定値内という健康優良爺であ

未来を担う子どもやそれを養う現役世代に回してもらおうのが、シニアの努めではないかと思えるようになった。そこで延命よりも「生活の質」を重視したいと思い、日本尊厳死協会に登録した。願わくば、「人の手を加えないで自然のままであること」、つまり老子の教え「無為自然」を実践していこうと思っている。

※167号の「LWのひろば」で、「遺言書の表に『死の直前に開封可』と認め……」との投稿を掲載しましたが、自筆証書遺言の場合、開封は有効性が争われる可能性もありますので、ご注意ください。詳しくは専門家に相談することをお勧めします。

編集部より

● 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

● 写真の募集 4月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは2月15日です。

神々しさ漂う
南アルプスの
農鳥岳からみた
朝焼けの富士山
撮影/T.Kさん



る。
病室まで、ほのかな香りをただよわせたキンモクセイを今、懐かしく思い出す。そんな季節になったが、今年わが家の庭木が花を咲かせないのはなぜだろう？

東海支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

第10回岐阜地区 リビングウイユ懇話会 in 岐阜

日程◎2月4日(日)午後2時～4時半
会場◎岐阜市民会館(岐阜市美江寺町2-6)

定員◎80人(無料)

報告◎小林 司 東海支部長
「尊厳死について」

講演◎「認知症の人の尊厳とリビングウイユ」

講師◎三浦久幸医師
国立長寿医療研究センター在宅連携部長

日本医師会生涯教育認定講座

後援◎岐阜県医師会、岐阜市医師会、中日新聞社

地域サロンへのお誘い

日程◎2月28日(水)、4月25日(水)
いずれも午後1時半～3時
会場◎名古屋市中村区の青木記念ホール
(地下鉄中村公園駅から徒歩5分)

終末期医療、在宅介護などを、お茶を飲みながら
語り合いませんか。希望者は支部まで連絡下さい。無料。

出前講座の開催は支部まで

グループ、団体にリビングウイユや終末期の過
ごし方などについてミニ講演の希望があれば、支部
理事が講師として出向きます。会場の確保だけが
条件です。東海支部までご連絡を。

北海道支部

☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

冬季講演会

日程◎2月9日(金)午後3時～4時半
会場◎札幌エルプラザ3階ホール
札幌市のJR札幌駅北口近く

テーマ「在宅緩和ケアの現況と終末期の
深い鎮静について」

講師◎前野 宏氏 札幌医療生活協同組合理事長
どなたも参加できます。無料。問い合わせは北海道
支部に。

おしゃべり広場

日程◎1月16日(火)、2月19日(月)、
3月20日(火)、いずれも午前10時～正午
会場◎札幌エルプラザ4階研修室1
(3月は3階多目的室)

東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

第27回 仙台駅横 リビング・ウイユ交流サロン

テーマ「事前指示書と尊厳死
～意味合い深まるリビング・ウイユ」

日程◎1月12日(金)午後2時～3時半
会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口徒歩3分)

お誘い合って、どなたでもどうぞ。無料。



お揃いの「尊厳死」Tシャツ

山形市で9月に開かれた東北支部大会でのひとこま。支
部理事が揃って「延命治療やめて！」と胸に刻んだT
シャツ姿で並び、300人の参加者の目を奪いました。

関西支部

☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

サロン交流会

テーマ「父の最期の27日間」

日程◎2月17日(土)午後1時半～3時半
会場◎支部事務所(JR新大阪駅、地下鉄新大阪駅
から徒歩5分)

定員◎15人(予約を支部まで)

浦嶋支部理事の経験をもとに、みなさんの不安、
経験、質問、意見をわちあいます。

定例サロンへのお誘い

日程◎毎月第2、第4火曜日、午後1時半～4時
1月9日、23日、2月13日、27日、
3月13日、27日
会場◎支部事務所

中国地方支部

☎ 082-244-2039 ✉ chugoku@songenshi-kyokai.com

公開講演会

日程◎2月25日(日)午後1時半～3時半
会場◎広島市まちづくり市民交流プラザ
研修室A・B(合人社ウェンディひと・まちプラザ)

講演◎「豊かにそして静かに看取る」
～特養老人ホームでの体験を通して～

講師◎鎌田七男氏 広島原爆養護ホーム倉掛のぞ
み園 前園長、医師、広島大学名誉教授。著
書に「広島のおばあちゃん」など。

講演後、質疑応答も

定員◎予約不要、先着120人

問合せは支部まで

後援◎広島県、広島市、広島県医師会、広島市医師
会、広島県歯科医師会、中国新聞社、高齢社
会をよくする女性の会・広島、NPO法人中
国シニアライフアドバイザー協会

公開講演会インほくとぴあ

日程◎3月21日(水・祝)午後1時半～4時半
会場◎ほくとぴあ 飛鳥ホール
東京都北区王子1-11-1
JR京浜東北線・地下鉄南北線・都電荒川線
王子駅 徒歩すぐ

講演◎「自宅で最期まで過ごすこと
—在宅緩和ケアという選択肢—」

講師◎鈴木 央医師
都内の医院で外来診療を
しながら、自転車を駆って
在宅患者を訪ねる。
協会関東甲信越支部理事

定員◎384人
(無料、予約不要、先着順)



サロン in 本郷

(電話予約が必要です。支部まで)
お茶を飲みながら皆さんでお話をする集まりです。

日程◎1月12日(金)27日(土)、2月9日(金)
24日(土)、3月9日(金)17日(土)。
いずれも午後1時半～3時
会場◎支部事務所(本部事務所内)／地下鉄丸ノ
内線か大江戸線本郷三丁目下車すぐです。
文京区本郷2-27-8 太陽館ビル5F
(分かりにくければお電話下さい)

地域サロン in 護国寺

日程◎1月18日(木)午後2時～4時
会場◎アカデミー音羽3階学習室A
東京都文京区大塚5-40-15
地下鉄有楽町線・護国寺駅下車徒歩2分
(日大豊山中・高校隣り)

定員◎25人(先着順、予約不要)

医療施設名	診療科	医師名 (敬称略)	施設所在地	電話
白根緑ヶ丘病院	脳卒中科	小池哲雄 	新潟県新潟市南区西白根41	025-372-3105
銀座在宅醫院	内科	井戸田 舞	東京都中央区銀座7-11-6GINZA ISONOビル5階	03-6826-1220
有仁会 阿部病院	内科	木島澄子	東京都品川区東五反田1-6-8	03-3447-4777
永高会鎌田クリニック	内科 外科 循環器科 精神科	若山達郎	東京都大田区蒲田5-40-7大塚ビル401	03-3737-6221
凌仁会ホームケアクリニック 田園調布	内科 麻酔科 ペインクリニック科 緩和ケア科	小林徳行	東京都大田区田園調布2-42-5-101	03-6715-6812
ホームアレークリニック城南	内科 神経内科	梅里尚行	東京都目黒区緑が丘3-1-7 セトル緑が丘1F	03-5731-0151
ホームアレークリニック	内科 神経内科	宇野佳孝	東京都世田谷区下馬6-17-11 セトル学芸大1F	03-6859-2800
焰やまと診療所	在宅診療	安井 佑	東京都板橋区東新町1-26-14	03-5917-8061
八王子消化器病院	消化器外科 消化器内科	林 恒男	東京都八王子市万町177-3	042-626-5111
つるや内科クリニック	内科 消化器科	鶴谷 孝	神奈川県川崎市高津区久本1-6-5	044-871-0814
クリニック医庵センター南	内科	田治直英	神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央40-3	045-945-1125
ゆう在宅クリニック	内科	桑原英幸	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町919-12	045-351-0063
めぐみ在宅クリニック	内科	太田一樹	神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3	045-300-6630
井口内科医院	内科 消化器科 循環器科 呼吸器科	井口和幸	神奈川県鎌倉市御成町6-9	0467-22-4681
いのうえクリニック	内科 胃腸科 外科	井上育夫	神奈川県南足柄市沼田97-1	0465-71-1311
命宝会 ユナクリニック	神経内科	須田南美	神奈川県小田原市永塚5	0465-41-3001
クローバーホスピタル	内科	篠原裕希	神奈川県藤沢市鵠沼石上3-3-6	0466-22-7111
千優会 藤沢在宅クリニック	内科	米田浩基	神奈川県藤沢市南藤沢17-16 秋山ビルⅡ201号室	0466-50-2399
中濱クリニック	内科 外科 胃腸科 整形外科	中濱昌夫	神奈川県相模原市緑区橋本4-11-34	042-773-8819
山口クリニック	内科	山口邦彦	神奈川県藤沢市高倉2332	0466-41-0333
内山クリニック	内科	内山富士雄	神奈川県茅ヶ崎市新栄町1-4	0467-87-6511
みつばしクリニック	内科 皮膚科 心療内科 在宅	金原一弘	神奈川県足柄上郡中井町北田525	0465-80-0404
五味渕医院	内科 循環器内科 胃腸科 小児科	五味渕秀幸	栃木県宇都宮市大通り3-1-15	028-633-3721
篠崎医院	整形外科	篠崎浩之	埼玉県加須市大越1460	0480-68-6308
梓誠会 梓川診療所	内科	小林織絵	長野県松本市梓川梓2344-1	0263-78-2058
諏訪赤十字病院	救急科 外科	野首元成	長野県諏訪市湖岸通り5-11-50	0266-52-6111
遠藤医院	泌尿器科	遠藤真琴	静岡県裾野市葛山中里692-7	055-997-0533
伊豆高原クリニック	泌尿器科 内科	福岡明久	静岡県伊東市八幡野989-89	0557-55-2522
青葉会 小松クリニック	内科	小松勝利	静岡県富士市伝法1989-66	0545-57-5225
三輪医院	内科	三輪一太	静岡県藤枝市岡部町内谷60-2	054-667-3000
もちの木診療所	内科	遠藤徹郎	静岡県浜松市天竜区春野町気田776-5	053-989-1500
信愛会 大石医院		太田俊介	愛知県豊川市国府町流霞103	0533-88-2235
信愛会 大石医院		大石明宣	愛知県豊川市国府町流霞103	0533-88-2235
信愛会 大石医院		竹下晴菜	愛知県豊川市国府町流霞103	0533-88-2235
芳賀クリニック	内科	芳賀 勝	愛知県豊橋市西幸町浜池58-1	0532-38-0808
堀尾医院	外科 内科 肛門科	堀尾 静	愛知県碧南市新川町5丁目108	0566-48-0633
渡辺クリニック	内科 小児科 循環器科	渡辺康介	愛知県名古屋市中区歌里町261	052-503-3616
みどり訪問クリニック	泌尿器科	姜 琪鎬	愛知県名古屋市中区鶴山1-109-1-102	052-680-7030
しのだクリニック	外科 内科 整形外科 皮膚科	篠田繁博	愛知県名古屋市中千種区田代本通5-15	052-751-1058
杉浦医院	内科 小児科 在宅医療	森 亮太	愛知県名古屋市中昭和区山手通5-33-1	052-832-1063
久米クリニック	神経内科 内科 小児科	久米明人	愛知県名古屋市中瑞穂区丸根町1-8	052-831-9970
あいち診療会 あいち診療所野並	内科	畑 恒士	愛知県名古屋市中白区福池2-330-2	052-895-6637
たつらクリニック	内科 泌尿器科 皮フ科	田貫浩之	愛知県日進市竹の山5-1501	0561-73-3636
ハープ内科皮フ科	内科 皮フ科	竹内秀俊	愛知県知多郡阿久比町横松宮前67	0569-48-9074
内科外科日比野クリニック	内科 消化器内科 外科 乳腺・肛門科	日比野 茂	愛知県東海市加木屋町樋49-1	0562-36-0050
胡蝶会 サンエイクリニック	内科	浅井真嗣	愛知県小牧市小牧三丁目560番地 ルミナスツインズ小牧北館1階	0568-74-2315
鈴木医院	内科 小児科	鈴木 例	愛知県春日井市大手町1050	0568-31-3062
野村内科	内科 小児科	野村 敦	愛知県一宮市多加木3-4-3	0586-24-0350
しみず内科クリニック	内科 循環器科 小児科	清水智雄	愛知県一宮市本町4丁目21-14	0586-72-3348
翔樹会 井上内科クリニック	内科	井上雅樹	愛知県一宮市開明字東沼85	0586-64-0003

高知講演会（一般公開）

日程◎2月4日（日）午後1時半～3時半

会場◎近森病院管理棟3階会議室
（高知市北本町1-1-28）

講演◎「終活と地域包括ケアについて考える
～ケアマネの立場から～」

講師◎森下卓也氏 土佐市居宅支援事業所のぞみ
第2部で懇談会。司会：小松倫子・訪問看護ステーション土佐所長、まとめ：北村龍彦・近森病院
理事、四国副支部長

問い合わせは、野中朋之・支部高知事務長まで（☎・
FAX088-882-0889）

サロン喫茶去だんだん

日程◎1月5日 お茶の会、2月2日 寒さ対策、
3月2日 今一番気になること

趣味あれこれ

日程◎1月19日、2月16日、3月16日

以上、いずれも金曜日、午後1時半～3時半で、会
場は松山市の支部事務所

ふくおか公開講演会

日程◎2月10日（土）午後1時半～4時

会場◎天神ビル11階11号会議室（福岡市中央区
天神2-12-1）

講演1「終末期医療と尊厳死
～日本における尊厳死の現状」

講師◎原 信之 九州支部長、医師

終活ワンコイン（500円）セミナー

日程◎3月27日（火）午後1時～3時

会場◎松山市のひめぎんホール別館14会議室

講演◎「自分が自分で亡くなる病について」

講師◎野元正弘支部長 愛媛大学医学部特命教授
申込みは支部まで。

「もしもの時」を寸劇で
LW研究会四国地方会に170人

日本LW研究会四国地方会が11月19日（日）、徳島
市のあわぎんホールで開かれた。約170人が参加、医
療・救急・介護分野の専門家を交えてLWを生かす理
解を深めた。

徳島連携医療「うず
の会」と支部徳島役員
が「もしもの時」の事例
を寸劇で紹介、救急救
命時の対応とLWや、看
取り時のかかりつけ医
の必要性を学んだ。



講演2「我が人生は楽しかりけり、
悔いることなし
～しいのみ学園創設者・
昇地三郎博士107歳の生涯」

講師◎古賀毅敏氏 元NHKチーフディレクター
定員◎120人（先着順、無料、予約不要）

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる
不安や悩みについて、相談員（看護師）が
丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて
解決できるように支援しています。

医療相談は、協会が最も重視している会員向
けの無料サービスですが、一般の方でもご利用
いただけます。会員・未会員は確認させて
いただきます。お電話をお待ちしています。

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
愛生会 くまもと温石病院	内科	村井 映	熊本県下益城郡美里町中小路835	0964-46-3000
家村会 新町いえむらクリニック	内科 消化器科 小児科	家村昭日朗	熊本県熊本市中央区新町1-7-15	096-353-5656
加来会 慶徳加来病院	内科 小児科 消化器科 循環器科	加来 裕	熊本県熊本市中央区練兵町98	096-322-2611
熊本地域医療センター	外科	廣田昌彦	熊本県熊本市中央区本荘5-16-10	096-363-3311
阿部内科医院	内科	鈴木保子	熊本県熊本市中央区本荘6-12-14	096-362-4008
泰泉堂 牟田医院	内科 消化器内科	牟田龍史	熊本県上益城郡御船町御船935	096-282-0216
後藤内科クリニック	循環器内科 内科	後藤和夫	熊本県熊本市南区御幸苗田町4-14-23	096-370-1110
たまのい内科クリニック	内科	玉野井優水	熊本県熊本市南區城南町阿高157	0964-28-1555
谷田会 谷田病院	一般内科	谷田理一郎	熊本県上益城郡甲佐町岩下123	096-234-1248
メディカルアクセス 沢田内科医院	内科	澤田知宏	熊本県熊本市中央区帯山4-21-22	096-382-6401
鶴友会 鶴田病院	外科	鶴田 豊	熊本県熊本市東区保田窪本町10-112	096-382-0500
鶴友会 鶴田病院	緩和ケア内科	上妻精二	熊本県熊本市東区保田窪本町10-112	096-382-0500
豊田消化器外科医院	外科	豊田徳明	熊本県熊本市東区江津1-30-20	096-371-4835
在宅・よろず相談クリニック	内科 神経内科	俵 哲	熊本県熊本市中央区水前寺3-43-27	096-234-7772
前田内科医院	内科 呼吸器内科 小児科	前田篤志	熊本県熊本市中央区白山2-11-16	096-364-3952

※LW受容協力医師名は、協会各支部ホームページで閲覧できます。**会員専用認証パスワードは「jsdd(半角小文字)」です。**

ご寄付ありがとうございました（敬称略）

青木安子	1,000	葛西弘子	4,800	船引平八郎	10,000
赤木慶子	10,000	加藤慶子	30,000	鱒沢洋子	1,000
赤嶺英吉	20,000	菊竹茂雄	3,000	松里英雄	3,000
秋山 孝	2,000	桐生敬子	3,000	眞野 新・君代	20,000
秋枝一郎	2,000	小泉二三子	1,640	村田近子	10,626
麻島昭一・絹子	10,000	小谷由紀子	2,000	米良ソヨ	10,000
新井泰臣	2,505	小林トヨ	4,590	安田ヨリ子	10,000
淡路安紗子	2,320	捧 祐子	10,000	山中千鶴子	7,800
石原典夫	5,000	佐藤しげ子	1,000	渡辺良子	1,724
磯野榮子	3,000	鈴木斐子	2,260	匿名	4,554
岩田軍一	20,000	高島 弘	100,000	匿名	10,000
岩谷淳子	17,408	高木雅子	10,000	匿名	50,000
鵜澤貫治	1,210	竹永昭二	2,800	匿名	1,000
大野節子	5,000	鵜澤郁枝	2,000	匿名	30,000
大田重子	4,000	萩上純代	20,000	【関東甲信越支部扱い】	
太田秀久	10,000	林 愛子	2,000	佐藤ツサ子	10,000
小野寺清子	1,000	原田とよ子	2,000	【関西支部扱い】	
開 榮子	5,000	福田 聖・八恵子	2,000	村岡徹二・晃子	8,600

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。

切手でのご寄付もお受けしています。

いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
岡田医院	循環器内科	岡田太郎	岐阜県関市本町5-15	0575-22-2078
大島内科クリニック	内科 循環器科 呼吸器科	大島貞男	岐阜県羽島市竹鼻町共栄町2990-1	058-391-0707
みんなのいぶきクリニック	内科 疼痛緩和内科	山下美紀	岐阜県大垣市見取町1-80-1	0584-71-8526
竹中医院	内科 小児科 循環器科	加藤悟司	岐阜県大垣市室村町1丁目54-2	0584-78-4531
萩原北醫院	内科 循環器科 呼吸器科	大林秀成	岐阜県下呂市萩原町羽根41	0576-52-3444
井口ハートクリニック	内科	井口智雄	岐阜県恵那市大井町1064-1	0573-25-0810
玉垣医院	内科・小児科	玉垣浩美	三重県四日市市河原田町2355-1	059-346-5472
朋有会 伊藤クリニック	内科	伊藤 毅	三重県四日市市下之宮町329-1	059-364-1877
久瀬クリニック	内科一般 消化器内科 呼吸器内科	久瀬 弘	三重県桑名市東方打上田232	0594-22-0800
いしが在宅ケアクリニック	内科	石賀丈士	三重県四日市市山城町770-2	059-336-2404
津在宅ケア診療所	緩和ケア内科 消化器内科 外科	山際健太郎	三重県津市大谷町255	059-224-1661
暁純会 津ファミリークリニック	内科 小児科 婦人科	成島仁人	三重県津市押加部町16-46	059-273-5000
草川医院	内科 外科	草川雅之	三重県津市大里窪田町1735番地の1	059-232-2210
刀根クリニック	内科 消化器内科 糖尿病内科 皮膚科 小児科	刀根幸夫	三重県津市香良洲町1875-1	059-292-7007
こもりクリニック	内科	古森俊輔	三重県名張市つつじが丘北5番町30	0595-68-8555
市立大津市民病院	緩和ケア科 精神・心療内科	畑 讓	滋賀県大津市本宮2-9-9	077-522-4607
永松クリニック	外科 内科 消化器内科 麻酔科 レントゲン科 リハビリテーション科 乳腺疾患	永松馨介	兵庫県芦屋市松ノ内町10-18	079-732-3399
聖授会 緑・在宅クリニック	内科	清水一旦	大阪府豊中市少路1-7-21 介護付優良老人ホームメルシー緑が丘1 F	06-6852-6886
市立藤井寺市民病院	外科	福原研一郎	大阪府藤井寺市道明寺2-7-3	072-939-7031
辰川会 山陽病院	内科	辰川匡史	広島県福山市野上町2-8-2	084-923-1133
いしおか医院	内科 胃腸科 放射線科	石岡英彦	広島県福山市大門町3-19-14	084-946-5100
静悠会 コム・クリニック佐藤	外科	有安哲哉	広島県福山市引野町2-20-17	084-941-0001
奥野内科医院	内科	奥野府夫	広島県府中市府川368-1	0847-46-3500
加美川クリニック	内科 泌尿器科 人工透析	加美川 誠	広島県三次市十日市東1-4-12	0824-62-5537
高場クリニック	内科 小児科	高場憲夫	広島県三次市三良坂町三良坂877-5	0824-44-2057
かいせいクリニック	内科 胃腸科 放射線科	海生英二郎	広島県広島市中区鉄砲町5-7 広島偕成ビル7F	082-224-1111
林クリニック	外科 内科 消化器科 肛門外科	林 克実	広島県広島市中区舟入南1-10-13	082-291-4555
片山内科小児科医院	内科 小児科	片山 健	広島県広島市安佐南区上安6-26-1	082-878-5589
弘仁会 清水医院	内科 リウマチ科 消化器科 小児科 リハビリテーション科	清水裕弘	広島県山県郡安芸太田町坪野864-1	0826-23-0061
ちくいえクリニック	脳神経外科 内科 神経内科 リハビリテーション科	築家新司	広島県安芸郡府中町本町5-1-6	082-286-7788
津元クリニック	外科 内科	津元光雄	広島県広島市佐伯区五月が丘2-7-25	082-941-1133
石川内科外科クリニック	内科 外科 緩和ケア科	石川哲大	広島県広島市佐伯区海老園2-10-21	082-923-1100
高畑医院	精神科	高畑長吉	広島県広島市南区宇品御幸5-16-16	082-251-5355
中谷外科医院	内科 外科 訪問・緩和ケア科 リハビリテーション科	中谷玉樹	広島県広島市南区西霞町13-27	082-255-1101
しみずクリニック	内科 循環器科 胃腸科 外科 リハビリテーション科	清水 明	広島県広島市安佐北区白木町小越193	082-828-3030
おきた内科クリニック	内科 糖尿科 リウマチ	沖田秀明	広島県広島市安佐北区落合南1-11-15	082-841-0033
佐々木内科・呼吸器科クリニック	内科 呼吸器科	佐々木啓介	広島県呉市本町4-1	0823-21-7373
たつき会 菅田医院	内科 外科 整形外科 皮膚科	菅田宗樹	広島県呉市川尻町東1-21-1	0823-87-2529
田辺医院	内科	田辺 賢	広島県廿日市市駅前11-3	0829-32-1135
中尾医院	内科	中尾精治	広島県廿日市市天神2-17	0829-32-2255
長谷川医院	内科 呼吸器科	長谷川健司	広島県廿日市市廿日市1-7-5	0829-31-0744
八幡クリニック	内科	八幡 浩	広島県廿日市市串戸4-13-24	0829-32-8118
廿日市松本クリニック	内科 消化器内科	松本春樹	広島県廿日市市福面3-1-20	0829-56-4530
藤原内科医院	内科	藤原雅親	広島県東広島市西条町御園字2421-4	082-422-6262
みなみの風診療所	リハビリテーション科 内科	今井稔也	高知県高知市栄田町3-7-1	088-826-3730
うつのみや内科	内科	宇都宮 慎	愛媛県上浮穴郡久万高原町久万206-5	0892-21-3353
高瀬内科胃腸科	内科	高瀬泰造	愛媛県伊予郡松前町出作539-1	089-984-8980
たんぼクリニック	内科	永井康徳	愛媛県松山市別府町444-1	089-911-6333
たんぼば倭津診療所	内科	永井康徳	愛媛県西予市明浜町倭津3番耕地228	0894-65-0026
愛媛医療生活協同組合 泉川診療所	内科	吉田克己	愛媛県新居浜市瀬戸町1-2	0897-41-6110
秦医院	内科	秦 信輔	愛媛県越智郡上島町弓削下弓削127-5	0897-77-2074

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.songenshi-kyokai.com/
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目6 37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町
1-12-39 旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区
本郷2-27-8 太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区
乾出町2-7 正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区
西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区
天神1-16-1 毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウイル Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(平成29年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ
り、既に死が迫っていると診断された場合に
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるために
は、麻薬などの適切な使用により十分な緩和
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ
てください。

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要
望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあ
ることを付記いたします。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ
りが近づいたら延命措置を望ま
ないで、自然の摂理にゆだねて
寿命を迎えるご自分の意思を表
した「リビング・ウイル」を発
行、その普及に努めています。

現在11万人を超す方々が「リ
ビング・ウイル」を持ち、安心し
た日々を送っています。自然の
まま寿命を迎えることは、最期
の日々をよりよく生きること
であり、今を健やかに生きること
につながります。

お友だちやお知り合いに協会
や「リビング・ウイル」のことを
お伝えいただければと願ってい
ます。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から
自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがあり
ますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。
次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ ご希望の会員
- 払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(10月払込の
方なら10月28日に引き落とし)
- 払 込 額 ▶ 会費相当額
- 手 数 料 ▶ 1 回の払込に162円(150円+税) の
ご負担があります
- 取扱 金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、
ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して
あります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も
記入して下さい。なお協会ではコンビニでの振り込みをお勧
めしております



『光差す』
今号の1枚

●「終末期」を「人生の最終
段階」と言い表したのは厚労
省でした。そのころは、人の
生き方は最期まで尊厳が尊重
されるべき、ということとし
た。「人の尊厳性」が前提にな
っている用語なのです。あれ
から2年、新用語はいろいろ
な場面で目にするようになり、
協会が1月に発行する「私の
希望表明書」にも使われてい
ます。7文字に託された「こ
ころ」が社会に広がることを
願うばかりです。(白井)

Living Will 目次

— 会報2018年1月 No.168 —

- 02 インタビュー
脚本家 倉本 聰さん
 - 07 週刊朝日ムックと連携
新役員名簿
 - 08 協会が
「私の希望表明書」を作成
 - 10 LW受容協力医師制度の
展望
ルポ・見川泰岳医師の「看取り」
 - 12 ●連載「四季の歌」
冬の夜
 - 14 ●LWのひろば
 - 16 ●支部活動 2018 冬～春
 - 19 LW受容協力医師のリスト
 - 22 事務局から／編集後記／目次
 - 23 終末期医療における事前指示書／
本部支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員:11万1307人
(2017年12月4日現在)

次号は、
2018年4月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●「付き人やらしてくんない
?」と、北島三郎さんに押し
かけ「付き人」を志願したこと
があるという倉本聰さん。異
様な人気のヒミツを探りたい、
との脚本家の話は示唆に富む
ものでした。とにかく自分の
目で見、納得する。そのヒミツ
は「わかった」という。北島さ
んの立ち位置、目線の低さで
した。それは倉本さんの『北
の国から』、最近話題になった
『やすらぎの郷』に深く息づい
ていました。(郡司)

出版案内 日本尊厳死協会がお勧めする必読の書

家族と平穏死をかなえる完全ガイド

さいごまで

好評発売中

定価980円(税込)
B5判・132ページ

週刊朝日ムック

自宅で診てくれる いい医者さん

●トップ対談

日本医師会・横倉義武会長×日本尊厳死協会・岩尾総一郎理事長

●自宅で親を看取った有名人対談

小池百合子(東京都知事)×

久坂部羊(作家・医師)

●こんなときは在宅医

がん終末期、誤嚥性肺炎…

●在宅医療を始める前の基礎知識／かかるお金

●家族が知っておきたい最後の迎え方

●長尾和宏医師が解説「いい在宅医の探し方」



最新の厚生労働省データを独自入手

看取り実績を
一挙公開!

2104診療所リスト

診療所名	所在地	診療科目	看取り実績	在宅医療	在宅医療	在宅医療	在宅医療	在宅医療	在宅医療
北海道									
●●●クリニック	札幌市	内科	1711	22	17	17	17	17	17
●●●診療所	札幌市	内科	417	57	37	37	37	37	37
●●●ホームケアクリニック	札幌市	内科	473	75	68	7	216	16	16
●●●内科	札幌市	内科	1502	25	25	0	19	5	5

このリストから
「いい在宅医」が見つかる!

週刊朝日ムック 出版記念講演会

診療所リストの読み解き方を徹底解説

「平穏死」10の条件

【日時】 2018年1月27日(土) 13時半～16時 ※予定

【会場】 朝日新聞東京本社 読者ホール (東京都中央区築地5-3-2)

【定員】 120名 事前予約制、抽選制、参加無料

【主催】 朝日新聞出版

【締切】 2018年1月15日(月) 必着

抽選結果は1月22日(月)までにお知らせ致します

日本尊厳死協会副理事長
長尾和宏 医師登壇



看取り実績がある
在宅医を探そう

【申込方法】 朝日新聞出版ホームページ「お知らせ欄」よりお申し込み下さい。

講演会特設ページ: <https://publications.asahi.com/news/776.shtml>

【問合せ先】 ☎03-5540-7665 (平日10～17時、担当: 東山、岡野)

お求めは
お近くの書店、
ASA(朝日新聞
販売所)へ
お申し込み
ください。

朝日新聞出版ホームページ、
またはお電話でも
受け付けております。
TEL03-5540-7793
(直販担当、平日10～18時)

朝日新聞出版より直送の場合、
下記送料がかかります。

●代金引換払い

(お電話での注文の場合)

・ご注文金額が1500円(税込)以上の
場合、送料230円(税込)／1回

・ご注文金額が1500円(税込)未満の
場合、送料530円(税込)／1回

※日本尊厳死協会では扱っておりません